

よりよい議会活動をめざして！ 委員会行政視察報告

議会運営委員会

議会改革などを視察 1月26日～27日・千葉県流山市、東京都町田市

議会運営委員会では、1月26日から27日までの2日間の日程で、千葉県流山市、東京都町田市を視察しました。

流山市議会では、議会自ら、その基本となる理念や方針を定める「議会基本条例」を制定しました。

条例では、「市民に開かれた議会」、「議員同士が討論する議会」、「自らが行動し、執行機関と切磋琢磨する議会」の3本柱の実現にむけた議会運営の理念、その理念を具体化する制度、その制度を活用する仕組みが定めてありました。

また、議会改革は「コミュニケーション改革」と位置づけ、全国で初めて、スマートフォンを活用し、議員ごとの賛否と採決結果が瞬時に議場内のモニターに表示される電子採決システムを導入したり、積極的な情報公開を推進するため、全国で初めてユーストリームを活用し、議会活性化推進特別委員会の審議状況をインターネットでのライブ中継を行っており、実際に機器を活用している場面なども見せていただきました。

町田市議会では、議会改革の一環として、傍聴人受付名簿を廃止したことや、全員協議会も原則公開としていること、本会議や委員会に手話通訳者の派遣を行えるようにしたこと、郵送による請願書も受け付けていること、請願者の押印を廃止したこと、

請願者の意見陳述を認めていることなどの説明を受けました。

また、市政にかかる重要な計画及び条例を策定する場合の標準的な手順が定められており、その中で議会に報告する時期や協議する時期が決められていること、各常任委員会単位で、市民との意見交換会や議会報告会を積極的に行っていること、傍聴者を増やすためにコミュニティバス等に定例会PR用の手作りのポスターを作製し掲示したり、各町内会や自治会用にチラシを作成し、広報に努めていることなどについても説明を受けました。



流山市役所にて

市民産業常任委員会

中心市街地活性化の取り組みなどを視察 1月19日～20日・青森県八戸市・青森市・黒石市

市民産業常任委員会では、1月19日から20日までの日程で青森県八戸市、青森市及び黒石市を視察しました。

まず、八戸市では、「観光資源としての郷土料理のブランド化について」を視察しました。平成14年の東北新幹線八戸駅開業をきっかけに、「八戸せんべい汁研究所」を立ち上げ、プロモーション活動として、試食会を開催いたしました。この活動の延長として生まれたのがB1グランプリであり、実際に第1回目は八戸市で開催されました。これらの活動により、せんべい汁に対する市民の意識も変わり、今では、ほとんどの飲食店でせんべい汁が用意され、観光客に自信をもって薦められる八戸の郷土料理となったとのことです。

次に青森市では、「中心市街地活性化の取り組みについて」を視察しました。青森市は中心市街地の商業施設整備をはじめとする商業の近代化を図るため、ショッピング施設、駐車場と図書館などの公的施設を兼ね備えた再開発ビル「アウガ」が、また医療施設やシニア対応型分譲マンションとした「ミッドライフタワー」が開業し、この2つの再開発ビルを活用するため、中心市街地活性化基本計画の認定を受け、郊外への大規模開発を抑制し、「アウ

ガ」、「ミッドライフタワー」を活用し、中心市街地に生活機能を集約して、歩いて暮らせるコンパクトシティの形成を推進しているとのことです。

最後に黒石市では、「料理を使った地域によるまちおこしについて」を視察しました。昔からやきそば・つゆやきそばは黒石の手軽なおやつとして定着しており、つゆやきそばがマスコミで取り上げられたことにより、過疎化で疲弊したまちおこしのため、平成19年に「やきそばのまち黒石会」が設立されました。平成20年からB1グランプリへ参加して好成績を収めています。現在は人口比率で、やきそば取り扱い店舗数が日本一となっており、「じょんがらロード駅」という情報発信基地を設け、やきそばPRや活動拠点を整備しました。



八戸市役所にて